

ツーリストシップを通じた観光課題の解決

1 目的・概要

日本だけでなく、世界的な課題として取り上げられることも多い観光課題。同志社大学の位置する京都は世界的にも有名な観光地であり、混雑やごみ問題など、多くの観光課題が山積しています。これに対し、スポーツマンシップの観光版である「ツーリストシップ」という概念を用いて、大学生の目線から解決策を提案するのが、本プロジェクトの目的です。



春学期の活動では、観光課題解決に注力するあまり「ツーリストシップ」の概念を広めることができなかつたり、長期的な効果を生み出す働きかけができなかつたりという課題が生じました。これらの反省点を踏まえ、秋学期では、「ツーリストシップ」を用いた優しい観光の提案へと形を変え、新たな施策を実行しました。

今回のプロジェクト科目での活動を通して、「ツーリストシップを用いて、人々が自発的に優しい観光をすること」が促進され、旅行者側も受け入れる側も皆が心地よく観光を楽しめるようになることを願っています。

Annual Schedule

2023年	4月	顔合わせ、ツーリストシップをはじめとした観光に関する講演
	5月	観光に関する講演、方針決め
	6月	うちわ作成と錦市場における配布、および嵐山周辺における実地調査とTikTokでのビデオ投稿
	7月	取り組みの振り返り、成果報告会
	10月	広報に関わる講演、ツーリストシップに関するブース体験、方針決め
	11月	『ふらっと京都』作成準備（実地調査、聞き取り、冊子制作など）
	12月	『ふらっと京都』配布
2024年	1月	1年のまとめ、成果報告会

2 成果達成度

春学期

・錦市場におけるマナー啓発うちわの配布

この活動は混雑緩和と旅行者、受け入れる側の双方にとって良い観光を作るための注意喚起を目的として行いました。錦市場の事業者の方々から写真を撮るために店の前に長時間滞在する、狭い市場内を広がって通行するなどのマナーに頭を悩ませているというお話を聞き、3つのマナーが書かれたうちわを配布するとともに混雑具合に関する意識が事業者と旅行者でどう違うのかを調べるアンケートを行いました。この活動の良かった点はアンケートからマナーを守っていると答えた観光客が多いのに対し、守られていないと感じる事業者が多いという結果を得た点と、500部あるうちわを全て配りきった点です。一方で改善すべき点はうちわのような当日だけ効果のあるものではなく、継続して観光客に働きかけることができる取り組みを行うべきであったという点で、秋学期ではこの点を踏まえた企画を実施する必要があると考えました。



・混雑緩和のために、隠された名所を TikTok で発信（嵐山）



この活動では、嵐山のような人気のある一部の場所に観光客が集中してしまうという課題に対して、多すぎる観光客は地域住民や街の景観に悪影響を及ぼしかねないため、状況緩和を目指して、行動を起こしました。嵐山の中では、竹林や渡月橋が有名ですが、未だ観光客にはあまり知られていないような場所も存在します。そのような京都の隠れた名所の風景や特徴を紹介するビデオをTikTokに投稿し、一部の観光地への過度な混雑を緩和することを目指しました。実際に、6つの動画を投稿し、平均500回ほどの再生回数を得られました。しかし、具体的な目標が定まっていなかったため、結果を詳しく分析することができていませんでした。また、閲覧回数しか目に見える数字がなく、ねらいに対する結果がともなっていませんでした。このように、この活動には課題点が多く存在したため、秋学期へ向けた改善が必要だと考えました。

秋学期

・フリーマガジン『ふらっと京都』の配布

秋学期は、春学期の施策の反省点などを踏まえて、フリーペーパー『ふらっと京都』を作成することにしました。目的は春学期から引き続き、観光課題（ごみ問題・混雑問題）の周知です。フリーペーパーには、「ツーリストシップの紹介」「平日・空きコマの観光」「ゴミの持ち帰り」「マイボトルと給水所の利用」を促す記事を収録しました。作成したフリーペーパー500部は、良心館前・臨光館前で、

通りがかった学生に手渡したほか、同志社大学内の3カ所（臨光館事務局前・弘風館広報課前・志高館）で配架、講義等で配布しました。

フリーペーパー『ふらっと京都』では、観光課題の周知という目的に対し、一定の効果を上げることができました。具体的には、フリーペーパー読者にあてたアンケートで、フリーペーパー内の企画のいずれかについて、100%の人が、知らなかった内容があると答え、87.5%の人が、実際にやってみたいと答えました。

3 プロジェクトを通じて

私たちは、「ツーリストシップ」という考え方を通して、観光の在り方や観光課題と1年間向き合ってきました。はじめは、観光という行為を複眼的に捉えるために、私たち自身が観光について調べたり、種々の観光に関するゲストスピーカーのお話を聞いたりしました。その後、身近な観光地における特有の課題を抽出し、該当地域の特徴や課題の内実に沿った対策を実施しました。次に、実施した事柄に対して振り返りを行い、成果報告会におけるフィードバックやツーリストシップの観点から、新たな企画を考えました。目的や対象者を再設定して新たに実施したパンフレットの配布は、「ツーリストシップ」の考えを優しく人々に広めつつ、自発的に行動を促すことができたと思います。



様々な視点から観光と向き合う中で、観光が大きな可能性を持ちながらも、同時に深刻な問題も起こしうる現象であることが実感できました。誰にとっても気持ちの良い観光のために、ツーリストシップが1つの大きな道しるべとなるのではないかと思います。



編集後記

プロジェクト科目に携わったことのある人が誰ひとりとしていない中、何から始めればよいのか全く分からない不安な状況から私たちの活動は動き始めました。手探りな状況から現状を把握し、課題を設定し、解決に向けて行動するというサイクルを踏む中で、発信や交渉、実地調査など普段の授業ではあまり行うことのない経験を積むことができたと思います。

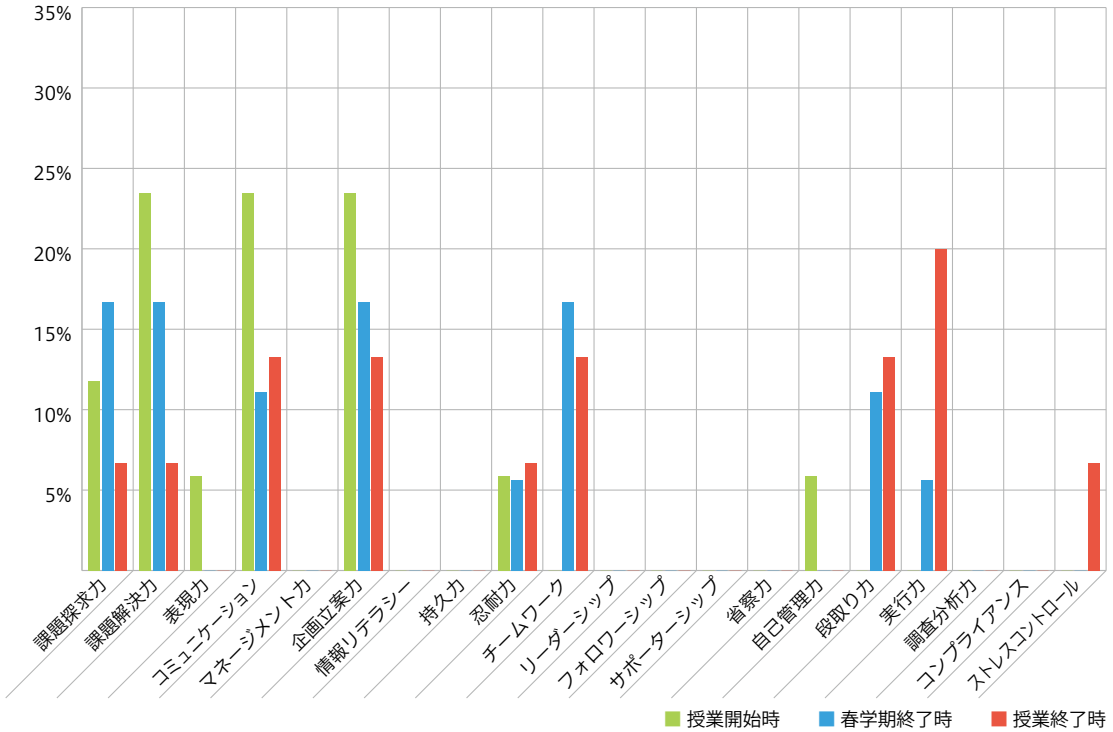
私たちが1年間活動を継続することができたのは、いつも様々な提案や助言をして下さった先生方やTAの坂さん、企画書や会計などの面で支えて下さった事務局の方々、講演をして下さったゲストスピーカーの方々、現場で見守って下さったの方々、その他ご協力して下さった皆様の多大なるご支援のおかげです。学生一同、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

プロジェクトメンバー

青木 優愛(文3) 大江 優海(文3) 竹中 亜芽璃(文3) 山本 響(社会2) 小林 大輝(政策3)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

